

「人のためになることができて良かった」

大阪府立中央聴覚支援学校、絵本を届ける運動に初参加



①黙々と個人作業をするグループ
②破れないよう慎重に慎重に…
③「みなさんよく頑張りました！」と富川先生(教壇の右側)
④自主的に検品をはじめるグループも

大阪市内にある大阪府立中央聴覚支援学校が、ベルマーク財団「教育応援隊」のひとつ「絵本を届ける運動」に初参加しました。

この運動はシャンティ国際ボランティア会(SVA)が続けており、貧困や紛争によって本に触れる機会が乏しいアジアの開発途上国の子どもたちに絵本を送ろうと、翻訳シールを貼って母国語で読めるようにして届けるボランティア活動です。ベルマーク財団は2000年から支援を続けています。

中央聴覚支援学校では、幼稚園から高等部まで幅広い年齢の生徒が学んでいます。今回この活動に参加したのは中学部の生徒28人。学校として参加するのは今年が初めてですが、実は富川裕子先生は昨年、個人的に絵本を3冊取り寄せ、中学部の生徒数人と作業を体験済み。実際にやってみて「これはぜひみんなにもやってほしい」と感じ、道徳(国際貢献)の授業の一環として今回の参加を決めました。

まずは9月2日に事前学習として、シャンティ国際ボランティア会の活動を紹介します。作業をした絵本がどのようにして外国の子どもたちの手に渡り、どう活用されるのか、ビデオを見て学び、イメージをふくらませました。そして16日、いよいよ実際の作業です。中学部1年生から3年生までの28人が縦割りで3グループに分かれ、ミャンマーに送られるビルマ語の絵本を作りました。

作業について先生からの細かな指示はなく、生徒たちが話し合っ決めていきます。グループによってさまざまな方法が見られました。シールを切る人、渡す人、貼る人と役割を分担するグループもあれば、1人に1冊を割り当てて各自で黙々と仕上げるグループも。

「この学校の生徒は、できること、できないことがみんなそれぞれ違うのですが、それを理解し、お互いに助け合う姿が見られてよかったです。いつもおとなしい生徒が意外なリーダーシップを発揮するなど、新たな発見もたくさんありました」と富川先生。

「授業時間内に完成できるか」と心配していた先生方でしたが、みんなの頑張りは予想以上。さまざまなハプニングを乗り越え、時間内に全部で24冊の絵本が完成しました。生徒たちは「名前をビルマ語で書くことが難しかった」「1人だと作業が間に合わなかった。みんなで協力する大切さを知った」「自分がシールを貼った絵本を、たくさんの人に読んでもらえるとうれしい」「人のためになることができて良かった」と感想を披露しました。

富川先生は、「日頃、支援されることが多い生徒たちにとって、自分が支援する側にまわる経験はとても貴重です。社会の一員としての充足感と達成感を得ることができるので、こういった運動に参加させて頂けるのもありがたい」とほほ笑みました。

【今回送る絵本】あひのこ(俊成出版社)、けんかのきもち(ポプラ社)、とべ!ちいさいプロペラ(福音館書店)、みずうみにきえた村(ほるぷ出版社)、プレーメンのおんがくたい(福音館書店)

掃除機、タイマー、マイクとアンプ、綱引きロープ…

「支援で購入」4校から感謝メッセージ

ベルマーク財団が今年度支援したへき地学校から、感謝のメッセージが届きました。



香川県高松市立男木中学校(溝渕浩二校長)は、今回の支援でスティック型の掃除機を購入しました。届いたその日から子どもたちが使ってくれています。

瀬戸内海を中心に位置し、人口約160人の島です。1947年の創立当時は54人の生徒がいましたが、人口減少のため2011年に休校。しかし島に猫がたくさんいることがメディアに取り上げられ、瀬戸内国際芸術祭の会場にもなったことなどから、移住者やUターンで島に戻ってくる人が増えました。2014年4月に男木小中学校として再開し、現在、小学

2・3・5年生と中学1年生のそれぞれ1名ずつが通っています。今回の支援では、子どもでも気軽に楽しく掃除できる道具が欲しいと考えたそうです。

北海道浜中町立霧多布中学校(佐藤岳彦校長、52人)は、様々なものを購入しました。点数などを記録するデジタイ



マーは体育館で使っています。黒板に貼り付けることができるスクールタイマーは、今年度1学級増えた特別支援学級で活用しています。

さらに車いすも購入、ケガをした生徒がスムーズに動けるよう階段下の部屋に設置しました。他にデジタルカメラ用のSDカード、理科の実験に使う直流電源装置も。事務職員の森若元太さんは「手

の届きにくいところの備品をいただき、大変助かりました」と話しました。

道東に位置する浜中町は「花の湿原」とも呼ばれる霧多布湿原が有名。町で作る生乳は品質がとても高く「ハーゲンダッツ」アイスクリームの原料としても使われているそうです。

群馬県沼田市立利根中学校(諸田義行校長、56人)は、ワイヤレスアンプとワ



イヤレスハンドマイクを生徒が使っている写真を送ってくれました。全校生徒が毎日ランチルームで一緒に給食を食べるのですが、そこで使う放送設備が古かったため希望したそうです。「持ち運びができて、体育祭でも活躍しました」と諸田校長。

学校は山に囲まれており、生徒の9割がスクールバスを使って通学しています。歩いて10分のところにある吹割(ふきわれ)の滝は「東洋のナイアガラ」とも呼ばれ有名です。

昨年度の東日本大震災被災校支援の対象校、宮城県石巻市立鹿又小学校(阿部弘子校長、296人)からは、以前に感謝メッセージをいただいていたが、今度は購入した商品の写真と報告書が届きました。協賛会社のファミリーマート(ベルマーク番号23)から寄贈されたベルマークも合わせて、電気ポット、一輪車6台、30メートルの綱引きロープなどを買ったそうです。ロープは春から10月に延期した運動会で使う予定です。

